

留学体験記

アメリカ・CSU チコでの留学生活

JSAF 2022 年秋派遣 最終留学レポートより

「留学期間中、多くの大変なことを経験しましたが、留学して後悔したことは全くありませんでした。それ以上に、多くのことが新しく、楽しかったです。」

派遣先大学	カリフォルニア州立大学チコ校 (California State University, Chico / アメリカ・カリフォルニア州)
在籍大学	横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科 4 年
留学形態	留学
派遣期間	2022 年秋派遣 (2 セメスター)

※本体験記は派遣生の最終留学レポートをもとに読みやすく再構成したものです。個人情報保護のため、氏名・学籍番号等は省略しています。

1. 留学の目的と、その達成

目的: ジャーナリズムを専攻してメディアに関する知識を身につけ、ジャーナリストとしての実践経験を積むこと。そして、アメリカ社会とその文化を体験することです。

達成: 両方の目的を達成できたと考えています。チコ校ではフォトジャーナリズムやジャーナリズムのライティングといった多くの授業を受けるとともに、実際に学生運営の報道機関に所属して英語で取材・執筆を行いました。春セメスター後には、アラバマ州モビールでテレビ局のインターンシップに参加するという貴重な経験もできました。これらの経験は、将来の私の夢に役立つと信じています。

加えて、アメリカでの生活を通して日本とは全く異なる文化に触れ、たくさんの新しい経験をしました。食事文化だけでなくコミュニケーションの取り方なども違い、時にショックを受けることもありましたが、今となっては興味深い経験だったと感じています。

2. 授業と学び

今学期に履修した科目は次のとおりです。

科目(コース番号)	単位	成績	内容と感想
Academic Writing-ESL (ENGL130EW)	3	A	留学生向けのライティングの授業で、MLA スタイルを中心に学習。評価は 15 回の授業・3 本の論文執筆・授業後の感想。毎回英語でディスカッションがあり、異なる文化を持つ学生と意見を交わして楽しかったです。意見交換の重要性を実感でき、親切に接してくれた教授には本当に感謝しています。
Writing for Mass Media (JOUR260W)	3	A	ジャーナリズムのライティング(AP Style による取材・執筆法)。評価は毎回の課題・小テスト・3 つの大きな課題。取材のアポイントを取り、翌日に取材し、すぐに執筆するスケジュールには苦労しました。電話でアポを取ることもあり緊張しましたが、取材は本当に楽しく、多くの人とコミュニケーションを取ることができました。
History of American Journalism (JOUR322)	3	B	アメリカのジャーナリズムの歴史。評価は 3 つのテスト・毎週の小テスト・授業内課題。毎週 2 時間超の映画鑑賞と教科書 30 ページほどのリーディングが基本で、他の授業との兼ね合いで苦労しました。ただ教授はとても親切で授業もわかりやすく、多くを学べたので履修して良かったです。
Photojournalism (JOUR353)	3	A	ジャーナリストとしてのカメラの撮り方・編集・その歴史(レクチャー・ラボ)。毎週のフォト課題で、外に出て知らない人に声をかけ写真を撮らせてもらうことの繰り返し。断られて落ち込むこともありましたが、仕事と割り切って撮り続け、最終的に A を取ることができました。教授にもかわいがっていただき感謝しています。
Writing Workshop-ESL (ENGL131W)	1	CR	英語の課題のサポート(ラボ)。English Support Center を 5 回以上訪れることが要件。在学生ボランティアの方々が課題を本当に丁寧に見てくれて感謝しています。
News Lab/The Orion (JOUR329)	—	—	取材・執筆法、プロのジャーナリストによる授業、ディスカッション、グループワーク。今期は履修登録せず Contributor として参加し、事件等が起これば写真を提供する形で学生新聞 The Orion に貢献。毎回プロのジャーナリストの話を聞き、メディア業界への知見を深めました。

■ 特にながらった課題

エッセイ・ペーパー(Writing for Mass Media): チコで日本語を教えている日本人教授に取材し、記事を執筆しました。アポイントを取るのが大変で、最初は取材を受けるつもりがなかったのですが、私のメールの文面に感動して受けてくださいました。日本語で 3 時間のインタビューを行い、時には涙ながらに語ってくださる場面もあり、本当に思い出に残る取材になりました。記事に信憑性を持たせるため、周囲の複数の方にも英語で取材を重ね、その人物像を掘り下げました。すべてのインタビューを聞き直して要点をまとめ執筆したところ、後日、担当教授から「良いストーリーだった」と褒めていただき、良い取材ができたと感じています。

プレゼンテーション(History of American Journalism): 受賞歴のあるアメリカ人ジャーナリスト、Brent Renaud 氏の生涯に関するプレゼンを行いました。ネイティブの学生の前でのプレゼンは少し緊張しましたが、教授からお褒めの言葉と追加点をいただきました。

■ 日本の授業との違い

- 日本の授業とは全く違い、みんなが積極的に発言し、思っていることを授業中に教授や学生に投げかけます。
- 教授はただ納得させたり諭したりするのではなく、わからないことは「わからない」と素直に話す方が多いと感じました。

3. 英語力の伸びと工夫

留学開始当初と比べてどのくらい伸びたかは「わからない」というのが正直なところですが、少しは成長したのではないかと思います。スキルごとの苦労と工夫は次のとおりです。

スキル	苦労した点	工夫した点
リスニング	ネイティブ同士のスラングは本当に難しく、スピードも速いため日本語で考えている暇は基本的にありません。カリフォルニアには世界中の人が集まるため、母語の影響で話し方が国によって違い、相手によって理解度が変わる点も苦労しました。	「許容力」です。最初はすべてを理解しようとして一つの授業で疲れ切っていましたが、それは非効率だと気づき、難しい単語は聞き流して文脈から内容を理解できるようになりました。執拗に理解しようとしないうような自然な態度こそ重要だと考えるようになりました。
スピーキング	最初から最後まで苦労しました。知らない言葉が多いうえ、日本語と発音が違う言葉も多くあります。相槌をあまりしない文化なので、本当に聞いてくれているのか疑うこともありました。	できるだけ簡単な言葉で説明し、物事を具体的な言葉で描写する力が重要だと気づきました。それでも、コミュニケーションの取り方は相手によって難しいこともありました。
リーディング	量と単語の難しさです。授業によっては1週間で難しい教科書を30ページ以上読むこともあり、内容理解に時間がかかり、他の授業との兼ね合いも大変でした。	難しい単語でも文脈から意味を類推できる場合は辞書を使わない、という方法を取りました。それでも重要な単語はほとんど調べたため時間は取られましたが、良い経験になりました。
ライティング	論文とジャーナリズムの両方のライティングを学びました。ジャーナリズムでは字数制限があり、最も重要なことを先に書かなければなりません。どの単語を使うべきか何度も迷い、書き直しました。ネイティブに比べ語彙が圧倒的に少ないことにも苦労しました。	「いかに簡潔に書くか」です。ダラダラ書いても同じ内容なら無意味で、冒頭をどう簡潔に書き、そこにどう面白味を持たせるかが重要だと気づきました。一つひとつの単語が重要で、その組み合わせで文章ができていることを、アメリカのライティング授業を通して認識できました。

■ 日々の工夫

語学力上達のために、とにかく単語を覚えめました。

4. キャンパスライフ

■ 寮と食事

ルームメイトとは、週末に IN-N-OUT というハンバーガー店に出かけたり、一緒に料理を作ったりしました。食事はミールプランが基本で、週末は自炊をしたりカフェに行ったりして過ごすこともありました。

■ 交友関係と息抜き

友達とは一緒に買い物や遊びに行きました。テストや課題が多い時期には、みんなで図書館で勉強していました。一番の息抜きは、音楽を聴くことと、映画やドラマを観ることです。日本の家族とは月 2 回程度、友達とは 2 か月に 1 回程度連絡を取っていました。

■ 学習サポートとパソコン

ノートパソコンは授業の課題やリサーチのために毎日使いました。大学のサポートセンター（ライティングセンター等）も授業の関係で利用しました。なお、コロナ禍での留学でしたが、それによる苦労はそれほどありませんでした。

5. 課外活動と一番の思い出

学生運営の報道機関 The Orion に Contributor として参加し、英語での取材・執筆や写真の提供を通じて実践経験を積みました。さらに春 semester 後には、アラバマ州モビールのテレビ局でインターンシップに参加するという貴重な経験もしました。

最も良い思い出は、多くの新しい人々と出会えたことです。一方で、渡米した当初は日々すべてが大変だったことも事実です。ただ、慣れてくると大変だと思うことは少なくなりました。

6. 費用と持ち物の目安

JSAF 留学プログラム費以外にかかった費用の目安です。

項目	金額・備考
国際航空券代(往復)	50 万円程度
現地での旅行費用	50 万円程度
個人的な諸費用(こづかい・買い物代など)	合計 100 万円程度
携帯電話料金	4,400 円×11 か月
ミールプラン以外の食事代	10 万円前後
教材費(学部)	8 万円(2 セメスター)
ヘルスセンター使用料・その他	なし

■ 持ち物のヒント

持って行った方がよかったもの： 歯ブラシ数本。

7. 留学を終えて

■ 成長を感じる点

- 自主的に何かをできるようになったと思います。旅行の計画や授業の課題なども積極的にこなすようになり、大人としての階段を上っているように感じます。

■ イメージの変化

アメリカは本当に自由な国であるがゆえに危険な国でもある、というイメージを持っていました。しかし、治安は州・地域によって異なり、チコは基本的に安全で良い町でした。一方、インターンシップで滞在したアラバマ州モビールは犯罪の多い都市で、私から見れば異常な事態でも、地域の人にとってはそれが当然という実情もあります。アラバマの方が、私がイメージしていたアメリカの雰囲気に近いように感じました。

■ これからの目標

進路としてはメディア業界を志望しています。テレビ局のプロデューサー職などを希望していますが、そのためにはより一層経験を積む必要があると感じています。

8. 同じ大学へ留学する後輩へのメッセージ

「チコは比較的安全な土地ですが、日本人はターゲットにされやすいことも事実です。特に大都市では、周りに気を付けて過ごしてください。」

9. 派遣先大学へのメッセージ

I really appreciate everything Chico State brought to me throughout my life in the United States. I remember that I was very nervous when I arrived in America, but people at Chico State international office welcomed me cordially. They supported international students until they got used to the environment. Also, Chico State Journalism department taught me what I wanted to learn at high level. Thanks to the great educational system, I learned a lot of things from the wonderful professors and met a lot of friends. Again, thank you for everything you've done for me.

■ JSAF のサポートについて

出発までの JSAF による英語学習サポート(IELTS マスターオンライン、Conversation・Reading Club など)は、自分では学習時間を取ることが難しいときに勉強を補助してくれたという点で役に立っただと感じています。また、出発前オリエンテーションは、単に説明を聞いて内容を理解するだけでなく、「いざアメリカに行くんだ」という心のモチベーションを高めてくれました。